

基本施策 18 シティプロモーション 平成30年度 施策評価シート①

【基本施策の目的】

さまざまな地域資源を活用し、本市のブランド力を高めるとともに、本市の魅力を市内外に発信することにより、本市に「訪れたい人」「住みたい人」「住み続けたい人」を増加させます。

【基本施策の今後の優先度】

判定区分	基本施策における課題の状況及び対応策
	基本施策の指標値は基本的に改善傾向にはなく、依然として地域活力の増進という取り組むべき課題もあり、今後も本市としてはしっかりと取り組んでいく必要がある。しかし、当面は基本的に現状の取り組みを継続的に進めていく予定であり、同一分野内における他の基本施策との比較の結果、同一分野内における今後の経営資源の配分の優先度が普通と判断した。

【指標の分析】




指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、今後の対応
小牧市の定住人口	人	実績	153,170	153,680	153,526	153,335	152,944	人口は、平成26年度をピークに減少に転じている。内訳を見ると、自然動態はプラスであるが、社会動態はマイナスであり、転出超過が人口減少の要因となっている。	自然動態もプラスの幅が縮小していることから、今後人口の減少は継続していくと見込んでいる。地域ブランド戦略の推進により、市に対する市民の愛着や誇りを醸成することは、長い目で見れば定住人口の維持につながるものと考えている。
		目指す方向性	H30の推計人口を上回る						
小牧市の交流人口	人	実績	2,318,896 (H24年)	2,213,229	2,053,144	1,985,733	1,697,292	指標の値は、目指す方向性とは逆に減少傾向にある。平成28年度対比では交流人口は約29万人の減少となっている。これは、「小牧山さくらまつり」をはじめ、「小牧市民まつり」や「こまき信長夢夜会」などの屋外大型イベントが雨や台風に見舞われた影響によるほか、「市民四季の森」や「小牧市歴史館」なども天候不順により客数が減少したことが要因となっている。	平成29年度にオープンしたあいち空港ミュージアムやMRJミュージアムと、平成31年春にオープン予定の小牧山城史跡情報館等の市内観光資源を結ぶプランを造成し、プロモーションを行い市内への誘客を図る。今後、小牧山城史跡情報館のオープンに伴う交流人口の増加が見込まれる。
		目指す方向性	➔						

【施策推進事業の考え方】

経常事業	削減に関する具体的な考え方	市民まつり支援事業 平成31年度以降、小牧駅会場が使用できなくなるため、設置する資材、リース料、運営費、警備費などの経費が必要なくなる。このため、委託料について削減できる見込みである。
実施計画事業	資源投入の考え方	小牧市観光振興基本計画改定事業 現状の基本計画に定める重点プランの3つの柱「小牧山」「名古屋コーチン」「航空宇宙産業」を継承しながら、交流人口増加に向けた検討を行う。 観光アプリ構築事業 現状は、計画を取り下げたため、新たな計画案が出た際に追記する。 多文化共生推進プラン改定事業 平成23年3月に策定された小牧市多文化共生推進プランの改定を検討している。

基本施策 18 シティプロモーション 平成30年度 施策評価シート②

展開方向1	都市のブランドイメージを構築します									
	目的 ○本市が持つ豊かな自然や歴史、文化、特産物などさまざまな地域資源を活用し、ブランドブックに示す都市のブランドイメージを醸成します。									
	所管課 秘書政策課									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容	
小牧市のブランドロゴマークおよびキャッチフレーズを知っている市民の割合	%	実績	38.0 (H26年度)		41.6	65.8	70.0	平成26年度から地域ブランド戦略アクションプランに基づいた様々な啓発活動を行ってきたことにより認知度は向上してきている。	今後も啓発活動により認知度は上がっていくと考えられるが、平成30年度に実施する地域ブランド調査で事業の効果測定を行い、より効果的・効率的な啓発を行う。	
		目指す方向性	↑							
展開方向2	観光推進体制を強化します									
	目的 ○小牧山城450年記念事業を契機として、小牧市民が自分たちの住むまちに誇りと愛着を持ち、また市外からも訪れてみたいと支持されるような魅力のある都市を目指します。									
	所管課 シティプロモーション課									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容	
主要な観光施策・資源の利用者数(イベント)	人	実績	133,256	130,168	102,224	138,496	94,592	指標の値は目指す方向性とは一致せず変動がある。平成28年度対比では31.7%の減となっており、その主な要因は、小牧山さくらまつり及びこまき信長夢夜会の来場者が、雨や台風の影響により4万1千人減少したことによるものである。	イベントは天候などによる影響も受けやすいため、今後も、当該指標値の変動は避けられない。イベントでの利用者数を飛躍的に増加させることは、安全面からも限界があり難しい。	
		目指す方向性	↑							
展開方向3	魅力あるイベント・まつりを開催します									
	目的 ○イベントやまつりなどにより、市民の連帯感や地域に対する誇りを高めます。									
	所管課 シティプロモーション課									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容	
市が主催するイベントやまつりに参加した市民のうち、満足している市民の割合	%	実績	77.3	76.9	76.0	77.4	77.1	来場者のアンケートによると、満足度は高く、まつりの周知、定着が図られ、期待どおりのまつり・イベントが実施できたことによると考えられる。しかし、満足度が減少しているため、マンネリ化にならないような改善が必要である。	来場したくなるイベントやまつりにするように内容を見直し、充実させるとともに、市民のニーズ調査を行う。	
		目指す方向性	↑							
市が主催するイベントやまつりに満足している、または楽しんでいる市民の割合	%	実績	56.0	53.1	52.5	50.4	49.8	満足度は年々低下し、来場者も減少している。マンネリ化や他市のイベントやまつりが周知され、要求されるものが年々高くなっている。今後も厳しい状況が続くと考えられる。	来場したくなるイベントやまつりにするように内容を見直し、充実させるとともに、市民のニーズ調査を行う。	
		目指す方向性	↑							

展開方向4	名称 中心市街地を訪れる人の数を増やします									
	目的 小牧駅周辺に広がる中心市街地への来街者数を増やし、まちに賑わいを呼び起こします。									
	所管課 シティプロモーション課									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容	
中心市街地が賑わっていると思う市民の割合	%	実績	27.8	27.2	23.2	23.5	21.9	ラピオビルのキーテナント 平和堂の撤退など、マイナス面のイメージが強く反映していると考えられる。	注目が集まるような、お店を誘致する。にぎわいを創出するイベントを創出するソフトだけでなく、新図書館建設、こども未来館、駅前整備などハード面の整備との相乗効果が上がるよう、適切な時期に見直しを図っていく。	
		目指す方向性								
中心市街地の主要な施設の利用者数	人	実績	316,615	294,958	280,588	276,147	252,020	子育て広場が約9,000人、えほん図書館が約6,000人、まなび創造館約10,000人減少している。ラピオビルのキーテナント 平和堂の撤退の影響によるものと考えられる。	平和堂の撤退後、三河屋の出店が決まり、ラピオ内の再構築が図られること、また今後、新図書館建設、こども未来館、駅前整備などとあわせ、利用者の増加が見込まれる。	
		目指す方向性								
展開方向5	名称 都市間交流の推進および国際感覚を醸成します									
	目的 ○国際社会に必要な幅広い視野と豊かな人間性を育みます。 ○国籍の異なる市民同士が地域社会の一員として支え合う多文化共生社会を形成します。									
	所管課 シティプロモーション課									
指標	単位	区分	基準値	H26度	H27度	H28度	H29度	方向性との整合性とその要因、実績の増減の要因	今後の見通し(予測)、事務事業等の見直し内容	
外国籍市民と地域で共に暮らしているまちと思う市民の割合	%	実績	62.7	62.7	60.7	48.8	47.8	指標値は、目指す方向性とは逆に減少傾向にある。その要因として、外国籍市民の数が、近年増加傾向ではあるが、国別の比率を見ると、これまで多かった南米系は減る一方、フィリピン人、ベトナム人などのアジア系が増え、国籍が多様化していることが挙げられる。	外国籍市民の増加と多様化が続いており、今後も指標値の減少が見込まれる。そのため、小牧市国際交流協会と連携し、小牧市に定住している外国籍市民のニーズを把握するとともに、外国籍市民の多様化に対する対応を進め、多文化共生についてPRしていく。	
		目指す方向性								
国際交流事業などへの年間参加者数	人	実績	2,014	1,807	1,921	2,001	2,071	H27年度以降は、指標値は目指す方向性のおり増加している。その要因としては、近年増加傾向にあるベトナム人による日本語教室の受講者数が増加していることが挙げられる。	フィリピン人、ベトナム人などのアジア系外国籍市民が増加していることから、今後も指標値の増加が見込まれるが、さらなる増加を目指し、事業のPRに積極的に取り組んでいく。	
		目指す方向性	